

名家連ニュース

令和7年1月18日(土)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 1024号



精神疾患の基礎知識講座(令和6年度) 第5回を終えて



誰もが人生の主人公

令和7年1月11日(土)午後1時30分から4時 北区総合社会福祉会館7階 大会議室
インフルエンザが猛威をふるう中、35名のご参加がありました。ありがとうございました。

① 「心のサポーター」養成研修について

【講師】 名古屋市健康福祉局健康増進課 林本氏

コロナ禍の一番大変な時期に行政の中心的な担当部署で過ごされた経験から、正しい知識がないことは差別や偏見に繋がると実感されたそうです。だからこそ正しい知識を普及啓発することは社会にとって大切なことだとお話されました。

国が進めている「心のサポーター」は身近な人の心の不調に気づき、耳を傾けることができるようにメンタルヘルスの入門的な学習や傾聴のトレーニングをするプログラムです。子どもから大人まで参加することができます。12月末時点で名古屋市の修了者は1,000名とのこと、講師派遣の道筋を整えて、受講の機会を増やしていく予定だそうです。

「心は見えない、だから聴く」そこから始まる支援に一人でも多くの市民が関わってほしいと思います。

6

② ボランティアの役割について

【講師】 名古屋市北区精神保健ボランティアグループ「かけはし」 井階氏

約20年前、精神保健福祉ボランティア講座の受講生が集まって「何ができるかよくわからないものの、とにかく何か力になりたい」というお気持ちから活動が始まったそうです。

困りごとを解決するのではなく、一緒に喜んだり、悔しがったり、「共にいること」「寄り添うこと」を活動の支柱にしてこられたとのこと、今や、北区内の様々な支援機関と連携して、当事者と共に地域福祉を豊かに耕している現在進行形との力強いお話を伺いました。

【講師】 名古屋市南区精神保健ボランティアグループ「あいの会」 横井氏

こちらも精神保健福祉ボランティア講座の受講生を中心に南区で活動が始まったそうです。当事者だけでも親だけでもなく、第三者的な立場の方々が温かく程よい距離感で傍にいてくださることがどれだけ大切なことかと改めて認識しました。ひきこもっていた方に何度も連絡をして参加を呼びかけて、参加が実現したこと、就労や結婚につながったケースもあることなど、試行錯誤しながらも少しずつ社会参加を実現していく姿に、支える側も励まされるというお話でした。

(文責: 神原)

最終回です!! お見逃しなく!

【第7回】 令和7年1月26日(日)午後2時から4時
北区総合社会福祉会館7階研修室

日本福祉大学青木聖久教授に講座の総括となるお話をしていただきます。
(テーマ)

「精神障害のある人がひとりの市民として地域でどう生きるか
～本人の暮らしに必要な要素及び家族会の活動に着目して～」

